

川崎異業種研究会（以下略称川異研）は、当所会員企業から成る異業種交流のグループです。昭和62年7月に設立され、今年で25年目を迎えます。

川崎異業種研究会のホームページ <http://www.kawaiken.jp/>

平成25年度通常総会

5月10日（木）午後4：00より、川崎商工会議所2F会議室5にて、会員25名の参加を得て通常総会を開催した。

平成24年度事業報告ならびに収支決算報告、平成25年度事業計画ならびに収支予算、平成25年度新役員選出が満場一致で承認された。

原会長から、平成25年度事業方針「川崎異業種研究会活動の活性化」と事業内容として、（1）会員交流事業の促進【定例会】移動例会などの実施、【県外視察会】10



月の実施、【分科会】方向性の検討）、（2）会員増強活動の促進（広報活動の充実）、（3）企業間連携・産学官連携事業の促進の3つの骨子が述べられた。



続いて、午後4：45より、講演会を開催し、成田 真由美氏（パラリンピック水泳選手、川崎市市民文化大使）を招き、「自分の可能性を求めて」をテーマに、中途障害者として生きる、完璧な人間はいない、見える障害と見えない障害がある、パラリンピックで金メダルを獲るなどが述べられ、参加者は真剣に耳を傾けていた。

その後、午後6：00より、同階会議室6にて懇親会を開催し、原会長の挨拶、山田会頭の来賓挨拶、来賓紹介、公益財団法人川崎市産業振興財団 曾禰理事長の乾杯発声の後、終始和やかに親睦を深め、紀中顧問の中締により、盛会裏のうち散会となった。

5月分科会

5月15日（水）午後6：30より、中原市民館第一会議室にて、会員8名、見学者3名の参加を得て開催した。

川崎市発達相談支援センター 阿佐野智昭副所長を招き、「発達障害」をテーマに、講演はすすめられた。

その範疇は広く、複雑で、心理学上の専門分野が多数あるところを、一般人でもわかるように説明がされたので、現状を非常によく理解できた。なかでも、研究が進み、人間の個性とされていた事象に診断名がついたこと。

以前は専門業務のみの担当が珍しくなかったが、技術と営業を兼ねて対応したり、リーダーとして人をまとめる役割が求められるなど、人とのコミュニケーション不全により、仕事の継続ができなくなる現代の問題を学んだ。

主観で他者を判断・評価しがちであるが、多様な個性を知り、各人への適切なサポートを鑑みた労務管理の必要性を感じた。



加入のお問い合わせは

事務局：麻生支所 TEL 044-952-1191